



第63号
発行責任者
藍川達雄

大宮退職校長会の

素晴らしい活動とこれから



大宮退職校長会

副会長 渡邊 正道

昨年10月に開催された懇親旅行に参加しました。今年度は、「江戸情緒漂う日本橋界限探索と養殖マグロを堪能する会」でした。これまで何気なく通り過ぎていた老舗や脇

り「大宮盆栽村と森鷗外を訪ねる」は、副会長金子泰久氏から森鷗外の生涯や長男森於菟と盆栽村についてお話を伺い、盆栽村探索では旧於菟邸内にも特別に入れました。

の通りに入った所の老舗の歴史についてのガイドさんの話は大変興味深く、特に小津和紙の江戸時代からの史料を展示した「小津史料館」や浮世絵に江戸情緒を感じました。

大宮退職校長会には、都内をめぐり会員同士の親睦を深める懇親旅行や地域の歴史を知る史跡めぐりなど魅力的で有意義な活動があります。是非多くの会員の皆様が参加されることを期待しています。

また、歩きながらお世話になった先生方と久しぶりにお話することや、近畿大学水産研究所の美味しい魚料理とお酒を飲みながらの会話はとても楽しい時間となりました。11月に開催された史跡めぐ

また、同好会として「書道・絵画・写真・囲碁・ゴルフ」などがあり、それぞれの同好会はとても充実した活動をしています。特に「書道・絵画・写真」は、大宮退職校長会の美術展で1年間の成果の集大成

として一人ひとりの作品を発表しています。

このように大宮退職校長会は、退職後の豊かな人生を送るための素晴らしい活動を提供してくれています。

しかし、大宮退職校長会はこの数年入会者の減少という重大な危機を迎えています。

「校長を退職すると退職校長会に入る」ということが当たり前ではなくなってきました。

さらに、定年退職が60歳から順次延長されていく中でも、60歳から校長は役職定年制の実施で校長職としての継続が不確実な点や70歳頃まで働き続けることが多くになっ

て時間的な余裕や「退職」という実感がなくなっていることが要因とも考えられます。

そして、さいたま市の意識はあっても大宮という意識は希薄で大宮退職校長会に入る気持ちも弱くなっています。

これらのことは、ここ数年幹事会理事会で危機感をもって協議し対応してきました。全会員の皆様に現状を知っていただき、これからの大宮退職校長会のためにご提案いただければと願っています。

令和6年度市内めぐり 大宮盆栽村と 森鷗外を訪ねる

令和6年11月15日午前9時、22名が大宮公園駅に参集した。

今年度も大宮観光ボランティアガイド会2名の方を招いて、藍川会長のご挨拶をいただいたのち、市内めぐりへと出発した。

大宮北中学校の会議室をお借りして、金子泰久副会長手作りのパワーポイント資料で、「森鷗外と盆栽村」について、

しっかりと学ぶことができた。特に、森鷗外の長男・森於菟については、初めて知ること

も多く大変有意義な時間だった。

その後、2つのグループに分かれて、「盆栽園」「漫画会館」「盆栽四季の家」そして、「森於菟邸跡」の散策を楽しんだ。

盆栽町は現役時代、学区でもあった場所なのに、ゆつくり景色も堪能しながら歩いたのは、初めてのことであった。

「盆栽の枝ぶりも、見る側の気持ちによって変わって見えますよ」とのガイドさんの言葉に十分合点がいった。

諸先輩方の健脚に今年も元気をいただきながら、風雅な時間を堪能した晩秋のひとつきであった。(福島博子)



令和6年度懇親旅行 「日本橋・ 銀座ウォーク」

まだ暑さが残る10月11日、陽光のもと江戸情緒に触れる福利厚生部主催の令和6年度懇親旅行が開催されました。

今回も昨年度に引き続き、大江戸歴史散策研究会の瓜生和徳氏のガイドによる日本橋老舗めぐり、さらにマグロの養殖に成功した近畿大学水産研究所が展開する銀座店で楽しいひと時を過ごそうという、まさに大人の社会科見学の旅でした。

JR東京駅八重洲北口に集合した藍川会長、加々美顧問をはじめとする総勢19名の会



員は、ガイドレシーバーを装着し、快適にウォーキングをスタートしました。

駅構内を出るとすぐの「北町奉行所跡」を一瞥し、日本橋方面を目指します。最初の交差点に差し掛かると、そこは超高層ビル群に囲まれたエリアでした。その左角のビルの1階フロアには紅を扱っていた1615年創業の柳屋総本店が入っていました。店舗に面して国道1号線が走り、目の前に地下鉄3線が乗り入る日本橋駅がある、まさに交通と経済の中心部に位置するこのビルは柳屋さんの持ち物であるとのこと。

信号を渡り、さらに日本橋に近づく所には創業者が本県飯能の出である榮太樓本舗日本橋本店が、やはり8階建ての巨大なビルの1階に店を構えていました。

ビル群を抜けると、高速道路の高架に覆われた日本橋に到着。日本橋をバック

に記念撮影をしました。橋梁に掲げられた徳川慶喜書の「日本橋」や東京市道路原標等々、近代歴史好きには堪らないスポットでした。

その後、山本山・コレド室町・福徳神社(芽吹稲)・千足屋(越谷のスイカ行商から起こした)・にんべん・山本海苔店・てん茂・うなぎ割烹大江戸等々を経て小津和紙さんへ。小津資料館では江戸時代の商業や流通の様子を見学できました。

銀座三越本店前で、ガイドの瓜生さんと別れ、JR有楽町駅から新橋方面に向かって歩くこと数分で、近畿大学水産研究所銀座店に到着。多くの飲食店が立ち並ぶエリアの途中、狭めの階段を登りきると、瀟洒なインテリアと明るい照明の店内に、期待感で会員一同笑顔いっぱい。

お昼のフルコースで飲み放題、大いに盛り上がりました。因みに、近畿大学には水産学部はなく、農学部水産学科であり、料理には農学部らしく季節の新鮮な野菜もふんだんに使われていました。

(松田泰成)

第25回 大宮退職校長会 美術展

10月15日～10月21日、大宮退職校長会の「第25回美術展」が、図書館展示ホールで時期を秋に変更して開かれました。今回は絵画・書・写真・工芸の各部門に、26名から62点の力作が出品されました。

參觀者の感想を紹介します。「いくつになられても可能性があり、すごく強い力を感じました」「鮮やかな風景写真を見て感動していたら、小6の息子の校長先生だったので、ダブルで驚きました」「職についていた時のお人柄を作品から想像するのも楽しい見方でした」来場者数は783名でした。

(入江知彦)



新シリーズ

私のときめき

ライフ⑥

前を向きながら

柴崎 邦夫

昨年の5月、「彩の国さいたま芸術劇場」から、封書が届いた。それは、新しい芸術監督の近藤良平氏が率いる『カンパニー・グランデ・メンバー大募集』のパンフレットだった。

そこには、「年齢、性別、国籍、障がいの有無、プロ、アマなどの垣根を越えて、様々な創造性をもった人々が集い、そこから生まれる表現を追求することを目的とした、大きな船のようなカンパニーを目指します」と書かれていた。

募集要項には、志望動機と得意分野を書いて申込みをするようにと書かれていた。私は、志望動機に「略：人は、なぜ舞台に魅力を感じ、情熱を傾けるのか体験を通して学び、自分なりの答えを出したい。また、舞台に関心を持つ

人たちと磨き合い、尊重し合いながら舞台の魅力に迫りたい。：略」と記し、応募した。応募者数は、832名。幸いにも書類審査を通り、現在、120名の仲間たちと体験活動を行っている。

講師は、俳優の今井朋彦氏や日比野克彦氏・ギターリス・歌手・ダンサー・影絵師・パフォーマーなど多彩で、一流の芸術家ばかりである。

なお、この新シアターグループの活動は2年間続き、本公演は、来年の3月である。

但し、舞台に立つためには、仲間と共に数々の体験を積み上げながら、芸術性を高めていく必要があるように思う。

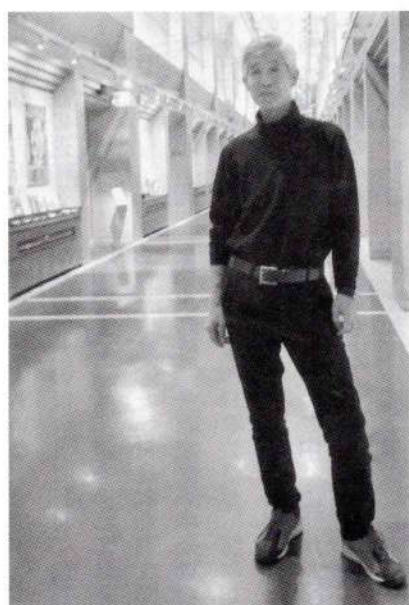
舞台といえば、三度舞台に立ったことがある。一度目は、蜷川幸雄氏が高齢者のためのクラブを企画・立案し、その後を引き継いだノゾエ征爾氏が、脚本・演出を手がけ、平成28年に上演した『ロミオ

とジュリエット』二度目は、平成30年の『病は気から』三度目は、令和元年の『吾輩は猫である』。

さて、前のグループと新グループとの違いは、高齢者だけではなく高校生や大学生、また、様々な障がいを持った方がいることである。

他にも新シアターグループには、交響楽団の指揮者・ピアニスト・バレリーナ・詩人・舞踊家もいる。このようなスキルの高い集団の中で音楽やダンスを学んでいるので、体験する度に、もどかしさや引け目を感じることが多い。

しかし、「挑戦が全てだ」と考え、感性を磨き、自分なりの表現を追求できたらと思う。恥じらいを忘れず、前を向きながら…。



同好会紹介

書道愛好会

心豊かに、

書作に励む

昭和60年に発足した書道愛好会は、今年で41年目を迎えました。現在、大木忠司会長のもと、会員は9名です。定例会は月一回、第二火曜日の午後、大宮区堀之内町の大宮工房館を会場に実施しています。年度当初、毎月の課題が示され、定例会には各自が仕上げた作品を持ち寄ります。作品制作の参考手本としては、「四体条幅手本」二玄社を使用しています。課題の漢詩はあまり難しい語句のない、比較的馴染みのあるものを選んでいます。また、年に数回はかなや自由題も取り入れ、変化を持たせています。制作する作品の書体は、楷書、行書、草書、隸書の中から各自が自由に選びます。特に制約がないので、個性豊かな作品が揃います。作品を持ち寄り合評会を開きますが、書風によって味わ



いも変わります。会では率直に意見を出し合いますが、的を得た励ましの指摘が多く、創作意欲も増します。

毎年の美術展への出品も励みになります。参観者からは会員の努力に対して、お褒めの言葉をたくさんいただいています。

埼玉県は全国的に見ても書道教育に熱心な所です。先生方も現職中は少なからず関わりを持っていたと思います。

愛好会は月例課題の書作を通して、筆を持つ楽しさを味わい、張りのある生活ができます。書に関心をお持ちの方、ご入会をお待ちしています。

(入江知彦)

会員の声

生きる喜び

木内 千代子

我が家では、1月2日に家族が集まります。

2歳から99歳まで賑やかなこと、言うまでもありません。楽しく話もはずみます。

最後には、いつも記念写真を撮って別れます。きつと今年も良い写真が撮れたでしょう。

楽しかった思い出を胸にそれぞれの家へ向かいました。

このことが幸せの生きる喜びになっているのです。

惜しみつつ免許証の返納

竹原 桂子

運転免許証の更新葉書が届き返納が更新かと大変迷いましたが、

最寄の警察署へ出かけました。期限最後の日なので、明日は免許センターとなるためほっとしました。

受付で経歴証明書の申請をした後、待つ間更新手続きをする人達をうらやましく思いながら「もう車には乗れない」と自分に言い聞かせていました。

帰りは、バス、徒歩で。翌日から、どこへ行くにも徒歩。近親者

から、長い間乗っていない自転車は危険と言われ、免許証の返納を後悔しながらの生活です。

支えられて

大木 忠司

身体が元気で自由に活動できた頃は、移動・物の運搬など何一つ気にすることはなかった。今は、

重い物・高い所・長く歩くなどには躊躇する。歩みは慎重に・転ばないことを常に注意している。そ

して、自分がやるべきこと、できることは果たすよう心掛けています。

特に、「自分一人では生きていけない。周りに助けられて今が在る」ことに感謝して、ゆったりと

生きることが大切だと痛感している。また、多種多様な情報に接する

今日、それへの対応を誤らないようにしている。

ゲンシツ

河田 捷一

ゲンシツとは、手や足を失った人に起こる症状で、私の場合は、交通事故で右足はすでに失っているにもかかわらず、いまだに足が付いているという感覚で、特に車椅子からベッドに移る時などは注意をしています。その他夜寝ている時、失われた右足の脛あたりが

痛く目を覚ます時もあります。これらゲンシツは人さまざまで、1

年以上続く人もいます。事故に合ったのは、3月13日午前11時頃です。横断歩道を渡っていたら急に右折した車にはねられてしまいました。それ以来車椅子の生活です。

愛写会に加入して

中山 亮

退職校長会の写真同好会「愛写会」に加入して2年になります。

撮影会に参加したり、年数回の例会では、持ち寄った作品の批評や

機材の話、撮影テクニックなど、話題は尽きません。私は風景写真

が好きで、以前は遠出もしましたが、高齢者の自動車事故が報道されて

いる今日、なるべく県内で撮影するようにしており、そこに新

たな発見もあります。県内の自然の素晴らしさなど写真で表現でき

るよう頑張りたいと思います。

小学校で郷土学習の特別授業を実施

吉岡 由和

さいたま市西部を流れる鴨川に藤橋といわれる橋が架けられている。鴨川に沿うように多くの古墳

や寺社仏閣が連なり古くから歴史や貴重な土地でもあり、なかでも

「藤橋の六部堂」と呼ばれる祠堂が建立されているが、これは江戸

時代の寛政年間の初期「小平治」と言う旅の行者が、洪水のたびに

川が氾濫し藤蔓で作った橋が壊れて流される様子を見て近隣の村々を巡り托鉢し、立派な石の橋を作り人々を救った。この史実にそつて紙芝居を制作して小学校や公民館等でその偉業を講演している。

「後悔先に立たないけれど」

中野 治代

傘寿を機に年賀状じまいをした。暮の慌ただしさがなくなり、大掃除などして正月準備に勤しむことができた。しかし迎えた新年、

ポストを開けて手にするあのわくわく感がない。届いた20通程の年賀状を押し抱いてうれしいやら寂

しいやら。そして、ひそかに後悔した。メールでは味わえない大切なものを失った気がしている。

失ったといえは昨年9月、12年半家族として過ごした愛犬を亡くした。まさに掌中の珠だったので

毎日思い出しては涙にくれた。今年は良い年であるよう祈りたい。

命のバトンリレーに感謝

坂井 俊夫

今、私の命がここにあるのは「あたり前」ではなく、先人やご先祖様、ご縁をいただいている人々等のお蔭です。一代25年として十

代250年で命のバトンリレーランナーは全員で2千人以上。人類

の歴史からすると、限りなく多くのリレーランナーがいたことになる。その間、自然災害、流行病、戦争等があった中を命をつないできたのだから奇蹟でしょう。父は私の出生後半年で出征、戦死。半年ずれていたら今の私はいない。

命を運んでくれた限りないランナーの皆様、ありがとうございます。

母に感謝

岡田 弘子

在職中は、中学校の英語教師。教頭・校長職を小・中学校で体験させて頂いた。

小学校入学を目前にして父が他界。母は一度退いたのに中学校の教員に戻り私と妹の二人を支えた。妹は産経スカラシップで英国留学

1年、その後高校の教師に。私は大学で小・中学校の教員免許取得

英語教師を10年余、その後、教頭・校長職を小・中学校で勤めさせて頂いた。臨終の父に約束した子育てに苦勞した母に今も深謝深謝！

学校給食費

加々美 健一

現国会（R6・12）で、学校給食費の無償化が話題になっている。これは保護者だけでなく、教職員

のためにもぜひ実現させたい。S40年代の小学校では、給食費を担任が手集めしていた。この労力は

大変なものであった。その後銀行振込になり労力は解消したが、管理職には新たな問題が起きた。給食費の未納である。管理職が保護者を学校に呼び寄せ説得しても容易に解決しなかった。今は、教職調整額の改正が話題の中心だが、教職員の負担軽減のためにも学校給食費の無償化もぜひ実現させたい。

尾瀬山行

須田 博

昨年、還暦を迎えた教え子の仲間7人と尾瀬に行ってきた。彼らが中学生の時に連れてつてやると約束していた。社会人になり、結婚して子育てなどで忙しくなると実行できなかった。会合のたびに催促があり、昨年、ようやく1泊2日で実施できることになった。旅行業者の子が全て手配して天神平とともに連れていってくれた。草紅葉には少し早かったけれど天候に恵まれて、とても楽しい山行になった。60年ぶりの約束をやつと果たせた。欠席者がいたのでもう一度行かなくてはならない。

拓郎の唄

佐藤 薫

突然、拓郎の「明日に向かって走れ」が聞きたくなくてレコードを廻した。懐かしい。ところが(も

う君に逢うこともない。心〇ゆれても)の〇印が聞き取れなかった。もう一度聞か、歌詞を見れば済むのだが「が」か「は」かを考えてみた。「が」は逢うか否かは、自分の心だけで決められるが、「は」は自分の心が逢いたいと思ってもそうはいかない。相手の立場、に友だちの眼、家族の眼、そしてなにより世間の眼、多くのシガラムを感じる。だから、(人は悲しいね)なのだろう。

半世紀ぶりのクラス会

入江 知彦

昨年の9月、初任校の大砂土小で2度目に卒業させた教え子と、50年ぶりで初めてのクラス会を実施した。数か月に幹事から出席の打診があったので、「二人でも二人でもいいれば参加するよ」と返事しておいたが、予想した人数よりも多い20余名が集まってくれた。教え子と言つてもすでに還暦を過ぎていて、喜寿を迎えた私より貫禄のある者も多かった。

会うのは久しぶりでも、昔の記憶は蘇り、懐かしい思い出は何時間話しても尽きなかった。

古希を迎えて気付いたこと

篠原 邦雄

昨年70歳(古希)になった。気がつけば、身体のおちこちの痛み

が取れにくくなり、油断すると関節の可動域も狭くなってしまった。健康維持のための運動は欠かせない。昨年は、早く逝ってしまった友人達の墓参で中・高・大学の同級生と会う機会が増えた。旧友が集まれば、ミニ同窓会となり、懐かしい話に花が咲く。教職でなかった仲間も多いが、違う世界を生きてきた話を聞くにつけ、自分が仕事の中で追及してきたことが、何だったのか改めて気付かされたような気がする。

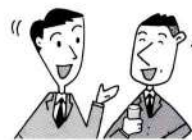
2回のMRI検査

小川 啓

後期高齢者の仲間入りをした。運転免許の更新は3日もかかるし、体の機能の衰えも覚える。

昨年はMRI検査を2回。1回目は1月に突然歩けなくなり病院へ。そこで、MRI検査を受け脊柱管狭窄症との診断。とりあえず痛み止めの薬を処方してもらった。その後は症状が治まり薬も不要になる。

2回目は12月の超音波検査で肝臓に影があるのでMRI検査をと勧められ高島屋近くのクリニックへ。その結果は特に異常はないとのこと。今は普通に日常生活を送れていることに感謝。



“嵐”去る

菊池 三郎

3年前に患った腰の状態は少し良くなってきたものの、まだ歩くことに難儀している。そんな折、年末に娘家族がやってきた。3人の孫たちは、私の体調を気遣いつつも、遊びとなると容赦ない。カルタ遊びでは、2人の孫娘に読み手を頼まれ、速く読むよう急ぎ立てられる。取り手となったときは負けまいと頑張るのだが、負けてしまう始末。近くの公園での3歳の孫(男)との飛行機遊びや凧あげでは後についていくのもままならず。とにかく疲れた5日間だった。今春も“嵐”は去った。

一ノ宮物語

丸橋 西重

今年の初詣は香取神宮でした。下総国一ノ宮です。千葉県香取市にあって、近くに、伊能忠敬記念館と佐原の街並みがあります。岩槻から東北道、外環、京葉、東関東道を経て、車で約1時間半。勿論、武蔵国一ノ宮大宮高鼻氷川神社には毎年参拝しています。今迄に行った一ノ宮は、常陸鹿島神宮、下野二荒山神社、上野貫前神社、越後弥彦神社、伊豆三島神社、大和大神神社、山城上賀茂神社、肥後阿蘇神社など。

目標は全国の一ノ宮の御朱印の完成。次は北陸。能登と越前若狭。今昔の感

鬼塚 真知子

昨年暮れ、閉鎖した市営駐車場に、事業計画を知らせる標識が設置された。5階建て2棟の用途は店舗・スポーツの練習場・診療所集会場(結婚式場)等。

臆気な記憶を辿ると、この場所は、小1の時、骨折した父を見舞った鉄道病院だった。中1の頃は、大勢の同級生が転入し、遊びに行った国鉄アパート。やがて、建物は老朽化し、高層のJRアパートと市営駐車場に姿を変えた。

今回の工事完了予定は、令和9年3月。現在利用中のジムも移るようなので、楽しみにしている。

サツマイモ

大野 光雄

昨年、草が生えて困っている一枚の畑を新たに預かり、手のかからぬサツマイモなどを作り始めました。収穫時期になり、知り合いなどに分けると大変喜ばれました。サツマイモと言えば、私たちが年代にはあまりよいイメージがありません。しかし、現在は品種改良がなされ、スイーツとして多くの年



代から認められています。そこで、今年は評判のよい紅はるかに期待を込め、倍の二畝にしました。

今、わが家では焼き芋、スイートポテト、芋羊羹等にして、美味しく食しています。

猫の恩返し

中村 秀男

三年半ほど前に保護した我が家の猫たち。今ではすっかり家族の一員となった。

昨年の夏、92歳の母が背骨を骨折し、50日間入院した。退院して我が家に帰って来てもベッドから起き上がれない状態が続き、気力も体力も衰えが感じられ、家族は心配だった。そうした中で毎日、猫たちが母の枕元に寄り添って勇氣付けてくれた。きつと、猫なりに状況を理解できたのだろう。

すると退院から1ヶ月後、母は自力でトイレに行けるまでに回復奇跡だ。まさに猫の恩返しである。

皇居三の丸尚蔵館と花菖蒲

渡邊 正道

昨年6月「皇居三の丸尚蔵館」の「皇室のみやびく受け継ぐ美」に行きました。一昨年装いも新たに開館した「皇居三の丸尚蔵館」は、狩野探幽や永徳、若冲、抱一、応挙、並河靖之をはじめ国宝や国宝級の美術品を多く所蔵していて、

今回展示美術品すべてが写真撮影可という日本では極めて珍しい美術展で、70歳以上入館無料というのも嬉しかったです。

その後、大宮退職校長会懇親旅行で知った皇居東御苑を散策し、「二の丸庭園」では、満開の美しい花菖蒲も堪能した一日でした。

□□ナ後復活した卒業パーティー

野口 一夫

川越駅西口「ホテルラ・ボア・ラクテ」フランス語で「天の川」の意味。その名前は「袖を振る」ことに由来し、昔の人々はこの袖を使って相手へ自分の気持ちを伝えていたということ。



卒業パーティー
皇居三の丸尚蔵館
学生たちはそれぞれの卒業した学校で、思い出を胸に、喜びを胸に、山村学園短大

幻の初来日公演

川本 順一

今から53年前の暮れのことである。高校3年生だった私は、学校から帰ると着替えを済ませ、渋谷の東急百貨店本店に急いだ。年明けに日本武道館で開催されるローリングストーンズの初来日公演のチケットを購入するためだ。

友達数人と一緒に地下駐車場に徹夜で並んだ。寒さに震えた。

翌朝10時の開店と同時に列が動き始め昼前にS席を手に入れた。

高校は欠席した。しかし、来日中止で払い戻しになった。やつとのことで初来日公演に行けたのはそれから17年後のことであった。

大宮北小と東光寺と私

菊地 豊

令和7年3月、大宮北小学校で完全退職した。北小は学区内に大宮北公民館、氷川神社等があり、人材・教材に恵まれ、担当したチャレンジスクールも楽しかった。

特筆は、隣接する東光寺である。

曹洞宗の名刹で私の書の田中先生の菩提寺であり、カルガモ親子が遊ぶ境内は出勤のルートだった。「坐禅教室」では本堂や坐禅堂で修業し、京菓子西湖まで頂戴した。昨年2月に落成した鐘楼も素晴らしい。富山県高岡産の特注品で、その音色振動は心身に染み渡る。

大宮北小、東光寺に感謝・合掌。

まだ生きてます

佐々木 恭一

一族の男は短命です。帰郷し小高い丘の墓前に頼みずき、苔生した墓誌を観ると男系先祖は僅く早世しています。女系は98、102等々景気の良い字が踊り、男系は12、

43など数字までが項垂れているようです。最高は70、古希。さらに女系の一族、養子で一族の歴史を紡ぎ今へ至っています。

しかしながら、後期高齢者にあと一步の佐々木、まだ生きています。絶賛記録更新中。

母校、全日本大学駅伝出場

大熊 譲一

昨春秋、母校が伊勢路を走った。連続3回、出場回数15回。結果は27校中24位の大健闘。出場回数は青学よりまた2回多い。今の中長距離部員数は26名。私の頃は全学部員で10数名(医・歯学部除く)。今や学年ごとにmgrがつく、部員100名を超える陣容。全学統合の成果か？彼らの活躍は、

当時関東2部所属の増大・群大に1600米継走で連覇したことを私達に思い出させた。工学部の旧友と懐かしむ半世紀前の思い出です。

道の駅

中山 正一

母の実家は北千住にある。だから母は江戸っ子。でも田舎へ行くと言う時は、戦時中の疎開先であり長兄の家がある古河へ行く。先日、用があつて田舎へ行った。その帰り、道の駅に寄った。「まほろばの里こが」だ。何とも不思議な名前。古事記にゆかりがある

のか。休日ということもあり、イベント広場では若者のコンサートが。建物の中には地場産の新鮮野菜やお土産の数々。フードコートもあり、たくさんの人で賑わっている。地図を見るとその先にも道の駅が並んでいる。久しぶりに田舎へ行くと思わぬ発見がある。

心して生活しよう

渡邊 朋久

軽い咳が始まった。風邪？が5日目にととうとう熱が出て、発熱外来を受診するはめになった。コロナでもインフルでもないと言われて一安心したのだが、いろいろ検査されて医師から出た言葉は、

「あなた、肺炎ですよ」

5日間の静養と服薬で一応完治はしたが、原因菌は特別なものではなかったらしい。平凡な常在菌でも何かのはずみで肺炎にまでいつてしまう。これこそが加齢による免疫力の低下かと実感した。いよいよ古稀。あまり老いは感じないが、心して生活しようと思う。

リサイクル講座に参加して

関根 俊幸

勤務している公民館でリサイクル講座を実施しました。カラー印刷の新聞紙の広告面を使ってブローチを作り、参加者たちはきれいな作品を作っていました。私は切

ったり貼ったりが上手くできずに最後まで作ることができませんでした。しかし最後に指導者から、より簡単な広告を利用したごみ箱や置物の作り方を教えていただき家に帰ってから作ってみました。これをきっかけに、いろいろなサイクルに取り組みたいと思っています。

城崎まで

松田 泰成

家族が退院してからおよそ2か月。家人の両足には人工関節が取り付けられた。おかげで、今はすたすたと歩行可能となった。そこで、約半年ぶりの旅行に出かけた。

11月、京都に宿を確保して、岡山経由で城崎温泉を目指した。

このところひざの痛みが苦悩している自分が必死に歩く。温泉に浸かっても、そう簡単に痛みはひかない。

列車に轢かれて大怪我を負い、この地で養生した志賀直哉ゆかりの地にやっと来ることができた。これはやはり、怪我の功名か。

写真家

橋本 栄

私の趣味は登山です。絶景を写真におさめてきました。昨年1月の本会美術展を見に行きました。作品はどれも力作。特に写真に強

く惹かれました。大画面なのに精

細な解像感と微妙な色調。自分も

山の写真をパネルにして家に飾り

たいと思いました。奮発して新し

いカメラを買いました。高画質で

彩度の高い写真が撮れます。行動

がカメラ目線になり、人やモノ、

色や形をより真剣に見るようにな

りました。そして本会の写真クラ

ブに入会。仕事、山登りに加え、

楽しみがまた一つ増えました。

携帯はますます欠かせない

過日、台湾旅行に出かけた。そ

の際の航空券は紙のチケットでは

なく、携帯のウォレットに保存し

たチケットのQRコードで全て済

ますことができました。

また、台北の果物屋で台湾マン

ゴーを買うとき、「切っていただけ

ますか」と、携帯アプリのボイス

トラを使って通訳してもらった。

無事成功。とても美味かった。

若者にとっては当たり前かもしれ

れないが、わが身の初体験であっ

た。旅行中、WiFiを使って

LINEで連絡を取り合う

ことを含め携帯は無くても

ならないものだった。

生涯現役エンジンの燃料

星 美千也

昨年、酷い風邪にかかり長く苦

しんだ後、心から実感したことが

ある。それは、ストレッチの効果

である。継続的に腰を曲げたり伸

ばしたりするなどが、いかに日常

生活を軽やかに、意欲的にしてい

たかということである。しゃがん

で物を拾ったり、腰を曲げて靴下

をはいたり、あぐらをかいたりす

るのに大きい効果があった。これ

は、生涯現役エンジンの燃料の一

つに違いないと考えている。これ

からも地道に続けていきたい。

授業づくり

前島 一夫

社会科の授業ヘルプを買って出

た。学校事情で特別支援学級の担

任が通常学級の授業を受け持つ事

になったからである。彼は息子と

同級生。免許はあるが指導経験な

し。おまけに社会科が苦手で、何

をどうやって教えるのか皆目見当

も付かないという。現役時代を思

い起こしながら自身の教材研究

そして授業の打ち合わせ。初めは

ぎこちなかった彼の授業も最近

生徒から「楽しい」という声も聞

こえてきて安堵。「やればできる

近頃思ふこと

鈴木 康弘

おかげさまで、館岩少年自然の

家に勤めて2年目となりました。

自然の家から尾瀬の登山口の一

つである御池駐車場まで、車で50

分位で行くことができます。

この周辺には、「フナ平」と言う

広大なブナの原生林があります。

以前は10月の1週目位に、おとし

の国かと思うほど美しい紅葉の景

色を見ることができました。ただ、

近年は温暖化のためか、紅葉のピ

ークが2、3週間も遅くなってい

ます。こんなに遅くて、動植物の

生態等に悪影響が出ないかと、と

ても危惧しています。

四季折々

新井 栄司

満開の桜の木の下でランドセル

を背負った小さな新入生。いつし

か青葉若葉。そして、炎天下でも

外で遊び、川で遊んだ。蟬の鳴き

声から赤とんぼが舞う夕焼け空。

たき火の周りで暖をとり、ほくほ

く焼き芋を頬張る。鉛色の空の下、

寒さも苦にならず走り回る。雪が

降るとみんなで雪景色の中に。

日本はそんな豊かな四季のある

国で、子どもたちは当たり前のよ

う。昔のことを美化するつもりは

さらさらないが、なんか寂しい。

週末は目が離せません

西川 和利

ゴルフ好きの会員の方には御存

じの方もおられると思いますが、

現在、女子プロゴルフアーとして

活躍している小林夢果プロは、大

宮小学校の出身です。私が校長と

して着任時の6年生でした。小学

生の頃からスクールに通い、卒業

文集には「プロゴルフアーになる」

と書いていました。見事、名前の

通り夢をかなえました。昨年のト

ーナメントではトップテン入りす

ることも度々でした。頂点に立つ

日がくることを願っています。興

味のある方は、ぜひ、応援をよろ

しくお願いします。

母校にて

富田 英雄

再任用の傍ら、母校の大学で教

職履修科目の非常勤講師をしてい

る。出身学部(4年)が対象

なので、まさに「後輩」。大学院進

学や企業に就職する学生が多いが、

それでも、教員の使命、学習指導

やいじめ、不登校といった課題に

真剣に向き合ってくれた。提出レ

ポートも自分の考え、感想等をぎ



対に教員になりたい」、「生徒に寄り添える教員になりたい」といった声も。うれしくなった。教員不足が深刻化する中、「ぜひ教員になって」と願わずにはいられなかった。

不透明

外園 倫生

日本の首相も米国大統領も変わり、価値観の多様化とともに個性の尊重なのか利己主義なのか、先行き不透明な超高齢化社会に突き進んでいるような気がします。若い世代の日本はどのような社会が形成されているのか。昨年は、実母を亡くし、この年になって、改めて親の有難味を実感いたしました。また、久しぶりに母校(大学)に行き、サッカー部の練習も見学し、一つ下の後輩監督にも久しぶりに再会出来ました。3月でいよいよ私も再任用が終了です。一番身近な私自身の先行きも不透明です。

赤十字に学ぶ

中村 勝光

縁あってさいたま市青少年赤十字賛助奉仕団の活動をお手伝いしています。そこで赤十字について勉強する中、「傷ついた兵士はもはや兵士ではない、人間である。人間同士として、その尊い生命を救わなければならない。」の言葉に出会い、感銘を受けました。こ

れは19世紀半ば、イタリア統一戦争の激戦地ソルフェリーノで救護活動を行ったアンリー・デュナンの信念です。デュナンは後に赤十字を創設し、第1回ノーベル平和賞を受賞します。一緒に勉強していただける方、募集しています。

2度目の節目

鍋木 隆

昨年3月末で市教委での再任用が任期満了となりました。5年前校長として定年という大きな節目を迎えたはずでしたが、当時は慣れ親しんだ(市)教委での再任用が内定していたので、節目とはいえ環境面でも気持ちの面でも大きな変化はありませんでした。しかし、今回は「いよいよ40年以上お世話になったさいたま市を離れるんだな」と思うと、5年前よりはるかに感慨深い感情が湧いてきました。3月には、お世話になった方々に「あいさつ回り」をして礼を尽くさせてもらいました。

私の使命

荻田 哲男

三つの大学で非常勤をさせていた。だっている中で、「環境」が人を創り、教え導くことがいかに大切かを実感しています。反省の多い現役時代、今ならもう少しましな教員になれるかもしれません。それにしても現場は大変なこと

になっていきます。文字を手書きすることが極端に減り、先生も子供たちも字が書けなくなってきたいます。間違った指導場面に出くわすたびに、私の使命は何かを実感する日々です。

後進の育成

田邊 泰

退職後、3年目が終わろうとしております。1年間の校長再任用後、縁あって、都内の大学で常勤職員として教職関係の授業や教採の勉強等を担当しております。満員電車での通勤や授業準備に追われる毎日を、どうにかこうにか送っている感じです。しかしながらこれまで蓄積してきた経験を生かすことができる機会を得られたことや、学生たちとのふれあいに、一教師として原点に戻った喜びを感じております。来年度は教員が、さいたま市の中学校で国語教師として赴任予定です。

近況報告

保高 智

私の楽しみの一つにソフトテニスがある。今年で52年になる。昨年もたくさんの大会に参加した。寒い中、暑い中、強風の中、負傷した時等、厳しい条件での試合もあったが、ソフトテニスという競技がとても好きで、私の生活の一部となつていく。また、毎週仲間

と練習で汗を流すことが私の心身のリフレッシュにも繋がっている。昨年の戦績は、東日本選手権大会で2位、全日本シニアソフトテニス東西対抗戦にも参加した。今年も怪我に気をつけ、楽しみながら上位を目指していきたい。



「私の居場所」

山下 誠二

再任用校長も5年が終了し、43年間の教員生活も終わり？と思っていました。縁もあり、現在は完全週5日制の星槎学園中等部大宮校の責任者として勤務しています。在籍校になかなか通えない生徒とともに体験学習に重点を置き「偏差値」よりも「成長の変化」また「共感理解教育」の授業を行いながら笑顔での楽しい毎日です。千葉県や東京都から通ってくる生徒もあり、今も私の居場所は生徒の近くにあります。

「誰かのことじゃない」

柳 紳一

これは法務省の人権啓発キヤッチコピーです。人権擁護委員に委嘱されて3年が経ちました。面談や電話での人権相談、学校や企業での人権教室、イベントで

の啓発活動、研修会など思っていた以上に忙しく活動しています。また多くの方との出会いもありました。

人権問題は古くて新しい問題です。「誰かのことじゃない」身近なことです。尊重し合うことの大切さを改めて感じています。

今年の目標

松井 聡

定年退職から4年、手に入れたたっぷりの自由な時間が宝物だ。健康寿命は残り1桁、そこで今年の新たな目標を定めた。①毎日1万歩を歩く。年間では約2600キロ、自宅と熊本を1往復することになる。②12月のホルムラソンに参加し完歩する。フライトとホテルは既に手配済みだ。③全国登れる灯台16基を制覇する。日本百名城制覇に続く新たな挑戦だ。何はともあれ、健康・安全で平穏な日々を過ごしたい。

気力体力の維持向上の日々

矢部 えつ子

退職して数年たち、現在は初任者指導に当たっている。初任者の指導力にはまだ課題があるが、澁刺さは何ものにも代えがたいことを実感する。まだまだ私も負けていられないと思う毎日である。そんな私の気力体力の維持向上に大きく役立っているものは、ゴルフ

と孫と過ごす時間である。ゴルフを通して体力を維持し、孫たちの成長に触れることで気力を高めている。私も彼らに「追い付け追い越せ」の気持ちで毎日充実した日を送っている。

「わかば学級」開講に向けて

原 田 守 康

私は、今、5月開講の「わかば学級」の企画を進めている。高齢者対象で75歳位の地域の方が多い。「元氣・健康・仲間」つくりを目的し、内容を考えている。全5回「認知症予防、早期発見と理解」「ピアノ・クラリネットに合わせた音楽と歌声」「葛屋重三郎の生涯とその人物像」「二胡コンサート」等を検討しており、講師と日時や内容、予算について相談している。私自身も大変勉強になり、健康づくりに結びついている。例年、澁瀬とした方々が多数申し込む。今年も開講が楽しみだ。

先生への期待

井 山 直 之

現在私は、再任用でさいたま市教委人権教育推進室に勤務しています。先日開催された人権教育研究集会の中で、講師の方が「先生への期待」として、学校で差別や人権問題等が起こった時に、解決に向け大切なことは「みんなが学ぶチャンスをつくること」という

お話をされていました。価値観の多様化が言われる今だからこそ、課題のより良い解決に向け、教師が機会を逃さず、子どもどうしが話し合う場をきちんと設定し、一緒に考えていくことが「先生への期待」の一つであると思いました。読書しなげや

駒 宮 寿 夫

私と同じ年で教員だった妻は、本が好きである。退職後は、本を読んでいる姿がよくみられ、読書量も増えている。最近毎週図書館に行き、何冊か本を借りてきて読んでいます。私はというと、電車通いをしていた2年前までは、生活の一部に読書があったが、最近スマホ使用時間が増え、読書量が減っている。基本的に妻の好きな作家と私の好きな作家は違うので、共に読み合って感想を話すことは少ないが、面白い作品は推薦しあっていた。今年はまた意識して読書時間を作ろうか。

教師の学びと校長

石 田 耕 一

所属先で、教員免許更新制度の発展的解消後の教員研修について、具体的にどう実施していくか頭をひねっています。令和3年の中教申審議まとめから「新しい教師の学びの姿」と呼ばれているもので、「教師の学びの姿も、子供たちの

学びの相似形である」との考え方も示されています。私は教師が資質能力を養っていく中で示す特性は、子供の学習の特性と変わらないうと考えています。であれば、校長は管理能力だけでなく「教師の教師」としての資質能力をさらに養っていく必要があると思います。次の五年へ

福 島 博 子

退職して、もう5年たった。あつという間だった。そして、50代の頃、思い描いていた60代とは全く違った日々を送っている。

一つ目は、60代の出発がコロナ禍だったこと。夫と長年の約束だった長期の旅行や「ゆつくり一緒に過ごしたい」と願った母との時間は全く叶わないまま数年が過ぎた。二つ目は、思いがけず大学で教える仕事をいただき、年々少しずつ増え、なんと今後も働くことを継続する決断をしたこと。

次の目標は、5年後の70代。今度こそ「夫や友達と旅行等をのんびり楽しんでいる自分」「少しは地域社会に貢献している自分」を夢想しているが…。

教師の喜び

中 村 英 雄

初夏の暑い中、職場体験事業のお願いに事業所を訪れた際に、「先生！」と声をかけられた。顔

を見てもすぐには分からないほど立派になった教え子との再会に、びつくりするとともに懐かしさでいっぱいになる。職場体験を終えた中学生に感想を聞くと、「挨拶の大切さ」を学んだと言われ、かつて部活の教え子たちに挨拶だけは事あることに指導し続けたことを思い出し、思わず笑ってしまった。

教え子たちがそれぞれの人生を生きていく中で、何か一つでも影響を与えられていたら嬉しいものだ。皆に声をかけて、楽しく仕事

坂 田 真 澄

現在、教育委員会各学校への支援と大学で小学校教員を目指す学生向けの講義をしております。今の学校は、ICTの推進で黒板の半分はスクリーンになり、児童生徒の机上にはタブレットが置かれ、教師の事務も効率的に進められるようになりました。しかし、授業にひた向きに取り組む教師と「できた」「分かった」「面白い」と目を輝かせる子どもたちの姿は変わりません。こんな学校の実現にむけた取組に関わることに、喜びを感じる毎日です。

退職校長会に思う

眞 嶋 廣 久

定年年齢の引き上げにより、管理職の定年に対する、また退職に対する意識も変わってきている。

まして現代の60代は働くのが当たり前になっている時代である。退職校長会に加入できる当該世代の加入率は、県全体で50%となった。校長を退職してまで群れるのはもういいという心理がある。しかし一方で「集団への帰属」は人が生きていく上の術として大切なことだ。所属することは、自分はこのにいますよという存在証明なのかもしれない。しかしそれでもまだ何かできると思いたい。

新会員コーナー
どうぞよろしく

教員人生「第2章」

堀 口 成 之

時代が昭和から平成に移る頃、私の中学校での教員人生が始まりました。そして、昨年の3月に役職定年を迎え、4月からさいたま市立教育研究所研修係にてお世話になっております。週4日勤務、久しぶりの電車通勤にはなかなか慣れませんが、さいたま市の教育を担う先生方のために、微力ながら責務を果たしていきたいと考えております。これまでご支援いただいた多くの方々に、心より感謝申し上げます。今後ともご指導ご鞭撻のほどどうぞよろしくお願い致します。

専門部会報告

各専門部の意欲的な取組が行われ、12月の理事会で以下の活動が報告された。

研修部

第2回目は、「子どもの主体性をはぐくむ学校・家庭・地域の連携のあり方」というテーマの下、10月24日に大宮南中学校を訪問し、田村浩司校長先生より学校の教育活動とその活動を推進するための家庭・地域との連携の現状及び心メールやホームページの活

成果と課題についてお話を伺い、研究協議を行った。

大宮南中学校は、今年度で76年目を迎え、生徒数335名、学級数12の小規模校である。子どもの主体性をはぐくむ取組として、「主体的・対話的で深い学びの実現に向けた学習指導の改善」、「生活のきまりについて目的を踏まえながら子どもたちの主体的な話し合いを行い、内容を改正」などの説明があった。また、家庭・地域との連携では、「安

おめでとうございます

次の方々がめでたく米寿・傘寿を迎えられました。

(米寿)	反町 益士氏	昭和11年10月29日生
	大木 忠司氏	昭和11年11月27日生
	齋藤 信治氏	昭和12年1月18日生
(傘寿)	栗原 巖氏	昭和19年4月12日生
	中山 亮氏	昭和19年4月12日生
	金塚 幹男氏	昭和19年4月13日生
	渋谷 忠雄氏	昭和19年7月1日生
	中野 治代氏	昭和19年7月12日生
	山岸 利男氏	昭和19年8月17日生
	関根 廣氏	昭和20年1月7日生
	中川 新五郎氏	昭和20年3月28日生

次の方が叙勲されました。

受章 令和6年秋の叙勲

山田 健一氏 瑞宝双光章



用、「部活動体験会・学校案内(学区内の小学五・六年生対象)」、「避難所運営訓練や地域行事への参加」、「コミュニティ・スクールの取組」などの説明があった。「人の役に立つ人間になりたい」、「ボランティア活動に積極的に参加する」などの生徒が多いことは大きな成果である。一方、教職員の働き方改革や子ども

の人間性の育成は難しい課題であると感じている。

福利厚生部

第2回目は、8月23日に懇親旅行と史跡めぐりのコースや見学場所の確認について具体的に検討した。

懇親旅行は「日本橋老舗めぐり―江戸情緒に触れる」として、10月11日に19名の参加者を得て実施した。東京駅八重洲北口に集合し、日本橋―小津資料館―近畿大学水産研究所へと向かった。水産研究所銀座店で懇親会を開き、楽しいひとときを過ごすことができた。

史跡めぐりは「大宮盆栽村と森鴎外を訪ねる」として、

計報

慎んでご冥福をお祈り申し上げます。

内田七郎氏(99歳)

令和7年1月22日逝去

11月15日に22名の参加者を得て実施した。大宮公園駅に集合し、はじめに大宮北中学校で金子副会長から大宮公園と森鴎外についてのガイドランスを受けた。その後、森於菟邸跡を特別に観覧させていただき、盆栽美術館による説明をいただいた。さらに盆栽園、四季の家、漫画会館などを巡って大宮公園駅で解散した。今回も貴重な経験をすることができ、大変有意義な史跡めぐりであった。

広報部

第1回目の部会後、会員、だより第62号の原稿入稿、校正作業等を経て、9月の理事会で無事発行した。

第2回目は、11月1日に会員、だより第63号の内容について検討し、史跡めぐりや懇親旅行、美術展、私のときめきライフ、会員の声などの内容を確認した。特に「会員の声」欄は、より充実した内容にな

るよう文字数を15字×15行に増やして原稿依頼をすることにした。

3月に発行し、理事会での配付を予定している。

編集後記



5月から10月頃まで続いた猛暑年明けには「寒波襲来」「大雪に警戒」という有様。

異常気象は様々な災害をもたらしました。しかし、そこにはいつも「絆」「助け合い」という人々の活動があり、明らかにそれは世界中から賞賛されています。今年は阪神・淡路大震災からちょうど30年。その年は多くの人が駆けつけ、被災者支援に関わり、日本における「ボランティア元年」と言われています。能登半島地震から早1年。残念ながら9月の豪雨は復興半ばの能登半島にさらに追い打ちをかけました。最近見た映画の中で、「忘れないことが大事です」と言っていました。

第63号も多くの皆様のおかげででき上がりました。今号に原稿をお寄せくださった皆様に、改めて感謝申し上げます。来年度も会員の皆様が肌で感じたことを、お聞きしたいと思っています。投稿お待ちしています。

〔編集委員〕佐藤 薫(副会長)
中山正一 真嶋廣久 新井栄司